

令和3年度 豊田市環境審議会第1回専門部会（脱炭素社会） 会議録

【日時】 令和3年6月28日（月） 午前10時30分～正午

【場所】 オンライン開催

【出席者（部会長以下、五十音順）】

部会長 杉山 範子（名古屋大学 未来社会創造機構 客員准教授）
梅村 豊作（市民公募）
近藤 琢也（豊田商工会議所第2工業部会 副部会長）
近藤 恭弘（豊田商工会議所第1工業部会 部会長）
匂坂 照二（気象庁名古屋地方气象台）
杉山 佐由紀（NPO法人とよたエコ人プロジェクト）
（事務局）環境政策課 塩谷課長、愛川担当長（ほか）
未来都市推進課 山井担当長

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

【次第】

- 1 環境政策課長挨拶
- 2 部会長挨拶
- 3 委員挨拶
- 4 議題
 - ・豊田市環境基本計画低炭素社会に係る中間見直しについて（協議）
- 5 その他
 - ・専門部会の名称変更について
 - ・豊田市地域気候変動適応計画の策定について（報告）

- 1 環境政策課長挨拶
- 2 部会長挨拶
- 3 委員挨拶
- 4 議題
 - ・豊田市環境基本計画低炭素社会に係る中間見直しについて（協議）

部会長	事務局から説明をお願いします。
事務局	「豊田市環境基本計画低炭素社会に係る中間見直しについて」の説明
部会長	資料内容について、委員から事前に3点質問を預かっている。1点目は、前期成果指標1.4「健全な人工林の推進」についての質問である。人工林の間伐実施面積には、豊田市以外の事業主体の実施面積が含まれているか？もし他の事業主体が含まれているなら、その割合はどれくらいあるのか？
事務局	成果指標として挙げている1年間の間伐実施面積目標値1200haには、県関連間伐事業も含まれている。そのうち、市が支援する間伐実施面積の目標値は400haで、割合でいうと6割が他の事業主体による間伐になる。 CO ₂ 吸収源対策だけでなく、災害を防ぐ観点からも気候変動の適応策として、健全な人工林の推進は重要だと考えている。
部会長	2点目は、指標1.5「気候変動への適応」についての確認。地球温暖化のスピードが懸念される中で、自然災害、農業、健康、水資源・水環境などの分野は、住民に大きな影響が予測される。気候変動適応策の策定スケジュール・目標等について提示してほしい。
事務局	令和3年度中に環境基本計画の中間見直しに合わせて、気候変動適応計画も打ち出していく。 目標値の設定については、短期的な成果が表れにくい分野のため、設定することが難しい。その中で中期的な視点で地域に与える影響を確信度と緊急性が高いものから優先的に進めていきたいと考えている。
部会長	3点目は、ゼロカーボンシティに向けた体制についての確認。2030年CO ₂ 50%削減の実現に向けては、豊田市各部署の緊密な連携・認識が大きく影響されると考える。また、官民学の緊密な連携も重要である。

	豊田市各部局及び関係団体等の連絡・調整方法等について、現在の取組状況等を教えてほしい。
事務局	地球温暖化防止行動計画の中間見直し後の CO ₂ 削減目標としてチャレンジ 50%削減を掲げている。これは、平成 21 年に策定した環境モデル都市アクションプランのときに掲げていた目標を踏襲したものである。国も 46%削減を設定している中で、50%削減を目指しながら進めると発言しているので、国と考え方はほぼ同じである。 また、脱炭素を目指すためには、環境部局だけの取組は難しい。温対法の改正が一つの追い風になっており、庁内でも脱炭素化への活発な意見が出てきている。 また、大手企業は自主的に脱炭素化を進めているが、中小企業も巻き込んで施策が進められるよう、商工会議所や金融機関との連携を模索している。
部会長	追加の質問や意見などはないか。
委員	特にない。事務局の回答で理解できた。
部会長	質問や提案などをお願いしたい。
委員	昨年度は多数の停電が発生した。山の上から腐った木が倒れてきて、電線が切れてしまったり、電柱を倒してしまい、停電が発生していた。停電のうち 7 割が倒木の影響。間伐は実施しているが、十分ではないように思う。気候変動の影響リスクを考えると、森林課や防災対策課と連携して、間伐事業を進めていく必要がある。 成果指標では柱 1. 4「森林吸収源対策の推進」を「順調」と評価しているが、もう少し進めていく必要がある。
事務局	地球温暖化に伴い、気候変動のリスクは高まってくる。委員の言うとおり、昨年 7 月は、長雨・大雨で倒木が複数発生した。 森林課や防災対策課と更なる連携をし、ライフラインの維持を意識して間伐や補修を実施していくことは重要な視点である。今後森林課等とも意識共有する。
委員	見直しの方向性、ロードマップや目標設定はこれでよいと思う。 具体的な施策がまだ出来ていないが、そこが一番重要だと思う。 脱炭素化については、自動車工業会は活動を開始しつつあり、

	<p>各企業に任せておいてもよいと思われる。そうではない産業は、脱炭素化に向けての動きがまだ進んでいないように思われる。</p> <p>気候変動については、気候変動の対策を行う上での予算の問題も大きく関係する。見直しをする中で、予算を重点的に配分してもらうなども含めて議論を進めるほうがよい。</p>
事務局	<p>脱炭素ロードマップの具体的な施策は現在考えている。次回8月の専門部会で、脱炭素ロードマップを示したい。その際、産業分野のところでは是非ご助言いただきたい。</p> <p>気候変動への対策については、予算が十分かはまだ評価し辛いところだが、財政部局としても、当初予算編成時に「気候変動の適応」として対外的にPRしている。</p>
委員	<p>「まちの状態指標」の市民の割合が下がっているところの分析について、自然災害の発生頻度の増加など不安は確かにある。</p> <p>事業者は一生懸命取り組んでいるが、一般の市民はどのような取組をやっているのが目に見えてこない意識が上がらない。情報発信の工夫などはまさにやっていかなければいけないことだと思う。</p>
事務局	<p>気候変動の影響に対して市民の関心度が上がっている今だからこそ、適応計画とセットで啓発していく。</p> <p>具体的には気候変動に関するプラットフォーム作りや市民や学校向けワークショップなどの開催を想定している。</p>
部会長	<p>次に、事前に2点の提案を預かっている。</p> <p>1点目は、渡刈クリーンセンターで発電した電力を近隣の高齢者施設での活用や売電だけではなく、周辺にビニールハウスを設置し、ごみ焼却の廃熱とCO₂を活用して、エネルギーコストの削減、周辺地域の雇用を生んだり、地域の民間農家の支援となるような取組ができれば面白い。</p> <p>2点目は、企業を巻き込んで、ダンボールコンポスト堆肥による屋上緑化計画を実施するのはどうか。堆肥を活用し屋上菜園づくりをとおして、循環型社会について学ぶとともに、屋上緑化、屋上菜園を推進し地球温暖化防止を進めていく。企業が取り組むことで広がるのではないかと考える。補足があればお願いします。</p>
委員	<p>生活のことを学べる施設がエコットであり、地域でできるこ</p>

	<p>とを提案してみた。エコットとしては、市民が主体的に取り組めることを考えている。最近では、初心に戻ってごみ拾い活動も推進している。</p> <p>地球温暖化問題が身近でない人にも、ちょっとやってみようかなと思えることを提案したい。SDGsに関心が高いので、中学生や小学生に伝えられるSDGsを盛り込んだ展示物やプログラムを作っていきたい。</p>
事務局	<p>ビニールハウスの件は、佐賀市でも同様の取組を実施しており、技術的には可能である。CO₂の回収設備費用等の費用対効果の面でなかなか採算が合わないと聞く。今後実証等を経れば変わってくるかもしれない。新しいアイデアとして参考にさせていただきたい。</p> <p>ダンボールコンポストについては、SDGsについて取組を進めていきたいという企業もいるので、とよたSDGsパートナーなどを活用して広げていくのもよいのではないかと思う。</p> <p>事業者がコンポストを使うだけでなく、市民が作ったたい肥を事業者が使って何かを育てるということも楽しいのではないかと思う。</p>
部会長	<p>脱炭素社会の実現に向けてというのは、市民のライフスタイルに直結する問題である。フードロスやマイクロプラスチック問題など、具体的な取組をSDGsの取組やとよたSDGsパートナーなども含めて一緒に取組ができるとよい。</p> <p>他の委員の意見を聞いて、追加での意見や質問などはあるか。本日の説明の中で、「他の部局との連携が必要」という部分が気になった。国は、地方でできることは全てやってくださいという流れになっており、他の部局とのコミュニケーション、連携が必要になってくる。</p> <p>今後どのくらいエネルギー消費を減らせるかが重要になってくる。中小企業をどのように巻き込めるかが非常に重要であり、産業構造が変わってくることも考えられる。企業の取組をうまくサポートするような取組にも力を入れてほしい。</p> <p>時間の関係で本日の議論はここで終了するが、もし、会議の後に追加等で提案や質問がある場合は、事務局に伝えてほしい。必要であれば、事務局からまたメール等で展開してもらえればと思う。</p> <p>それでは、本日、予定している議題は以上である。</p>

	これで議事を終了する。
--	-------------

5 その他

- ・ 専門部会の名称を「低炭素部会」から「脱炭素部会」に改めることを連絡
- ・ 会議録を公開するタイミングから「脱炭素部会」と改める。
- ・ 豊田市地域気候変動適応計画の策定について（報告）

事務局	続いて、事務局からその他の事項として報告である。
事務局	「豊田市地域気候変動適応計画骨子案」を資料に沿って説明。
事務局	<p>ただいまの「豊田市気候変動適応計画骨子案」について、質問があればお願いしたい。〈特になし〉</p> <p>今回質問や提案等伝えられなかったことがあれば、メール等で事務局に連絡して欲しい。</p> <p>今後の予定ですが、資料5に記載のとおりである。既に開催通知をお送りしており、環境審議会本会議が8月3日に開催予定である。その後、第2回の専門部会を8月下旬に開催したい。</p> <p>以上をもって、令和3年度 豊田市環境審議会第1回専門部会を閉会する。</p>